

川崎市在住の世界的アーティスト「折元立身」^{おりもとたつみ}の作品と作家像を追う

オンライン展覧会

「折元立身 生活を感じる、おもしろい作品が生まれた。1946-2024」
を開催します

川崎市市民ミュージアムのWebページ内で、2024年3月1日(金)10:00から、オンライン展覧会「折元立身 生活を感じる、おもしろい作品が生まれた。1946-2024」を開催します。

折元立身氏(1946年生まれ)は川崎市在住の現代美術家です。アーティストを志して渡ったニューヨークでは、棚から落ちて砕け散った破片をつなぎ合わせて《皿時計》(1971)を制作します。帰国後もパフォーマンスや映像、ドローイングなどの発表を続け、国際的な評価を高めてきました。

本展では、2006年に市民ミュージアムで開催されたパフォーマンス《50人のおばあさん》などの代表的な作品を紹介すると共に、新作パフォーマンス《ラーメンをかぶる》を初公開します。

加えて、折元氏へのインタビューでは、生い立ちから現在までの作家活動について、さらに詳しく探っていきます。



《皿時計》1971年



《50人のおばあさん》2006年

展覧会概要

本展覧会は、市民ミュージアムのWebサイト内、「the 3rd Area of "C"—3つめのミュージアム—」で御覧いただけます。

期間：2024年3月1日(金)10:00～3月29日(金)15:00 (無料・申込不要)

<https://www.kawasaki-museum.jp/thirdarea/>

主催：川崎市市民ミュージアム

協力：^{ふかがわまさふみ}深川雅文(キュレーター/クリティック)、

東海大学ティーチングクオリフィケーションセンター、東海大学松前記念館



折元 立身 TATSUMI ORIMOTO

1946年川崎市生まれ。「フルクサス クロック」展(ニューヨーク、1974)、「第49回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」(イタリア、2001)、「第1回横浜トリエンナーレ」(神奈川、2001)など多数の展覧会に参加。川崎市市民ミュージアムでは2016年に回顧展「生きるアート 折元立身」を開催した。



《ラーメンをかぶる》(2023)

新作《ラーメンをかぶる》のパフォーマンスは、2023年8月に、旧川崎市市民ミュージアムの逍遥展示空間で行われました。目の前で繰り広げられる暴力的とも思える出来事に、ある人は困惑し、目を背けるかもしれません。この作品は、折元の活動の根底にある、生きることへの自問自答へのひとつの答えといえるでしょう。

本展では、このパフォーマンスの動画とともに、ドローイングを公開し、制作の過程を紹介します。



《ラーメンをかぶる》2023年



《Plan For Performance

ラーメンをかぶる かぶされる, T.O.2020 3/19》

2020年

関連イベント

視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ ※事前申込制

目の見える人も見えない人も、展示会の作品と一緒に鑑賞するワークショップをオンライン形式で開催します。本展出品作品を数点取り上げ、参加者全員とナビゲーターが気付いた点や感じたことを互いに語り、質問し合いながら鑑賞します。

日時 2024年3月20日(水・祝) 14:00 ~ 16:00

開催方法 オンライン (Zoomを使用したグループ鑑賞)

対象 障害の有無に関わらず、どなたでも ※Zoomが使用できる方

定員 7名 (保護者や介護者との参加可、申込時に備考欄に御記入ください)

申込方法 市民ミュージアム イベントページ内の申込フォームから

申込期間 2024年2月26日(月) 10:00~3月11日(月) 16:00

※申込多数の場合は抽選、当選者のみ3月14日までにメールで連絡

協力 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

イベントページ URL <https://www.kawasaki-museum.jp/event/29034/>



昨年度開催時の様子



【問合せ先】川崎市市民文化局
川崎市市民ミュージアム 押田
電話：044-712-2800